

## 6 参考資料 (1) 兵庫県文化財保護審議会建議 (抜粋)

### 1 平成5年12月 兵庫県文化財保護審議会 (中間報告)

こころ豊かなふるさと「兵庫」づくりの推進

- 文化財保護の当面の課題 -

#### ア. 特色ある県立考古博物館の整備

埋蔵文化財については、しばしば開発を規制・制限するものとしてとらえられ県民の理解を得るのが困難な場合もあるが、他方、古代史を紐解く鍵となるような遺物が出土したりすると新聞などで大きく取り上げられ、県民に夢を提供するものとして歓迎される。とりわけ近年、考古学ブームとも言えるような人々の考古学に対する関心の高まりが見られ、近隣府県においては、出土品の展示を中心とする考古学専門の博物館が整備されつつある。

兵庫県では、現在、'明石架橋関連をはじめとして大規模プロジェクトに伴う多数の発掘調査が実施され、貴重な出土品が蓄積されつつある。こうした発掘調査の成果については、その都度、現地説明会を行うとともに、埋蔵文化財調査事務所において速報展を開催するなど公開に努めているが、展示スペースや系統的な展示などの面で十分とは言えない。

このため、兵庫県においても考古学専門の博物館の整備構想について積極的に検討する必要がある。この場合、わが国最多量の木器が出土していること、古くから首長の石棺や須恵器を多数生産していることや各種の街道を通じ東西交流の舞台として栄えたという兵庫県の考古学上の特色等を生かしつつ、県民が考古の世界を体験できるような夢のある施設として整備することが望ましい。

また、その際、近隣に埋蔵文化財のフィールドを確保し、学術調査や野外での教育普及活動に活用するなど埋蔵文化財を総合的にとらえることができるような仕組みを工夫することが求められる。

### 2 平成12年10月 文化財保護審議会建議

次世代への継承と新しい文化の創造のために

- 21世紀における兵庫県の文化財行政について -

. 文化財行政の当面する課題と提言

#### (5) 県立考古博物館(仮称)構想の推進

次に、県教育委員会が進めている県立考古博物館(仮称)構想の早期実現による出土品の公開・活用の必要性であり、現下の文化財行政の最大の課題である。

県立考古博物館(仮称)は、建設予定地が播磨町大中遺跡隣接地となっていることから、単に出土品を展示する施設ではなく、遺跡隣接型の特徴を生かして地域住民と連携した参加体験型博物館としての設置が望まれる。また、本県が地域的に広大な面積を有していることから、県立考古博物館(仮称)は県立館として県内の考古学の中核施設として位置づけ、県内所在の博物館や郷土・歴史資料館等をサテライトとして資料・情報の交流、巡回展の開催、共同調査・イベントの実施等を積極的に進めるべきである。幸い、県・市町では、現地説明会、土器づくりや勾玉づくりなどの各種体験事業、さらに、「トライやる・ウィーク」などを通じての発掘調査体験など、普及事業が蓄積されており、県立考古博物館(仮称)自体の各種事業はもちろん、県立考古博物館(仮称)が市町実施のソフト事業の有機的連携の触媒機能を担うなど、創造的教育活動の場を提供し、全県に活動を展開する施設としての機能をもつことが望まれる。